

Gakugei
Album
2015

高度経済成長期の東京学芸大学と地域社会
學藝アルバム



●写真上：空から見た東京学芸大学（『學藝』第2号、東京学芸大学同窓会教育研究会、1964年）
●写真下：1960年の武蔵小金井駅北口付近（小金井市教育委員会提供）

【会期】2015.7.24(金)～8.20(木)

【休館】8.12(水)～16(日)

【時間】[平日] 9:00～17:00 (最終日 13:00まで)
[土日] 10:00～17:00

【場所】東京学芸大学附属図書館 ラーニングコモンズ

【主催】東京学芸大学大学史資料室

【共催】東京学芸大学附属図書館

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室事務室 [電話] 042-329-7896



東京学芸大学
大学史資料室
Office of Tokyo Gakugei Univ. Archives



ご 挨 拶

東京学芸大学が小金井にやってきてから、60年以上たちました。小金井にきたのは、もともと池袋にあった東京第二師範学校が、1945年4月に戦災で焼けたことがきっかけでした。敗戦後、東京にあり、敷地も広大だということで、小金井の旧陸軍技術研究所跡が新しい学校地に選ばれました。1946年のことです。当時、東京学芸大学はまだ生まれていませんでしたが、この時から数えると、すでに70年近くの年月が経過していることになります。

その後、1949年に新制大学として東京学芸大学が設立されます。この時には大学本部は世田谷に置かれ（現在も東急東横線の「学芸大学」という駅名に、その名残が見られます）、小金井は1～2年生が勉強する場所でした。当初は5万坪でスタートした敷地が、後に10万坪に増やされ、いくつかあった分校は、次第に小金井に統合されていきます。ただし敷地の拡大にあたっては、住んでおられた方々の移転問題も起こりました。最後に残った世田谷分校も、1964年に小金井へ統合され、東京学芸大学は現在の形となります。

この1964年は、東京オリンピックが開かれた年で、戦後日本の高度経済成長のもとで、社会が大きく変貌しつつあった時期でもあります。東京学芸大学の周辺でも、鉄道沿線を中心に、商業地域の拡大や住宅地化が進み、人口が急激に増加しました。1960年代は、大学においても、周辺の地域社会においても、大きな変化があった時期でした。

今回の展示では、1960年代を中心に、資料を通して大学と地域社会の変貌を見ていきます。そしてこれをきっかけとして、大学と地域社会との関係があらためて見直され、両者の間でより深い交流が生まれることを願っています。

2015年7月24日

東京学芸大学大学史資料室長
東京学芸大学附属図書館長

藤 井 健 志

Gakugei
Album
2015

高度経済成長期の東京学芸大学と地域社会
学芸アルバム

